

# 第十八回 新城薪能

とき 平成十九年八月十八日(土)  
午後五時三十分始  
ところ 新城文化会館大ホール  
入場無料

## 能組

仕舞

経経経経

政政政政  
クセ キリ クセ キリ

定盛展也  
村田昂平  
加藤晃  
今泉尚美

5時30分始

連吟

三輪

シテ今岡アイ子  
ワキ太田温子

夏目みよ子  
鈴木富代  
小林寿枝  
伊藤秀子

連調

船弁慶

粟谷明生

定盛展也  
村田昂平  
加藤晃  
今泉尚美

6時00分頃

火入式

新城市議会議長  
新城市教育長

兵藤祐治  
和田守功

連調

玉葛

粟谷明生

伊藤秀子  
小林寿枝  
今岡アイ子  
星野弘子

狂言文

荷

大郎冠者 小沢貞博  
次郎冠者 山本勝

主人 大原正巳  
後見 天野雅夫

6時50分頃

ごあいさつ  
新城市長 穂積亮次

仕舞

湯谷 葛城 紅葉 養老 桜川 遊覧 柳行

夏目みよ子 太田温子 鈴木富代 伊藤秀子 小林寿枝 太田康弘

狂言 賞 聒 佐野泰三

水谷至男 山口俊一 酒井宏

8時00分頃

能 葵

上

シテツレ 竹内省吾  
シテ 今泉英三  
ワキ 牧野修  
フキツレ 竹内三郎  
間 加藤賢一

大鼓 清水利高 大鼓 中嶋康夫  
小鼓 森田收 笛 酒井淑規  
伊藤杉人 佐藤陽  
長田共永 中村邦生  
鈴木崇史 栗谷能夫  
杉浦史佳 栗谷浩之  
太田研司

後見 栗谷明生 太田康弘

附祝言

(終了予定午後九時頃)

主催 新城市文化協会  
後援 新城市  
新城市教育委員会  
新城市観光協会

あ ら す じ

狂言 文荷 ふみ はない

主人からことづかつた恋文を太郎冠者と次郎冠者で届けに出かけますが、二人で担つてもなぜか文が重い。ついに二人は、文に何が書いてあるか気になって、見てしまいます。そこへ主人が心配になって、やってきますが……。

狂言 貰 賀 もらい むこ

酒を飲んで帰宅した男が、酔った勢いで妻を家から追い出してしまふ。妻は、度重なる夫の酒乱に我慢できず、子供をおいて実家に帰ります。翌朝、酔いがさめて妻を、実家に迎えに行きますが、舅は、娘はここにはいないと言います。そして……。

能 能 葵 上 あおいのうえ

左大臣の御息女で、光源氏の北の方（正室）である葵上が物怪に悩まされ寝込んでいたので、貴僧高僧を召して加持祈禱を行つたり、さまざまな医療を施してみたが、いっこうその効き目がない。そこで朱雀院に仕える延臣が、梓の弓によつて亡霊を呼び寄せる呪法の上手である照日の巫女に命じて、怨霊の正体を占わせます。すると、梓の弓の音にひかれて、源氏の愛人であった六条の御息所の生霊が破れ車に乗って現れます。そして、源氏の愛を失った恨みを面々と述べ、葵上の枕元に立ち寄つて責め苛み、霊界へ連れ去ろうとします。

【中入】

臣人は、ただならぬ様子に、下人を呼び、横川のよかわ小聖という行者のもとへ走らせませす。急ぎ駆けつけた行者が、早速に祈禱を始めると、御息所の怨霊が、鬼女の姿で再び現われ、行者を追い返そうとして激しく争いますが、その法力には敵しえず、ついに祈り伏せられ、悪鬼さながらの怨霊も心を和らげて成仏します。

## 薪能（たきぎのう）

この名称は、夜になって薪を焚いてそれを照明代わりに演能するところから来た名称ではありません。もとは「薪の神事」などと称して新年に薪を寺社に献進する儀式で、一種の春迎えの行事でした。それに伴って行われる猿楽が「薪の猿楽」でありました。

奈良の「薪能」は奈良時代に起こった行事で、興福寺の衆二会しゅにえに鎮守やしろうの社から東西金堂へ行法のために薪を積む儀式であり、その時翁式じゆんしきの聖者が薪を負うて舞うことが芸能化しました。初めは寺に所属する呪師しゅしが司つかさどっていましたが、後に、猿楽者が代行するようになりました。能楽が大成後は金春座が責任者となり、他の座も参勤していましたが、明治以降は中絶、戦後復活、昭和二十五年京都薪能が平安神宮で催されて以来、各地で大衆野外能として流行するようになりました。

新城においては、新城文化会館が完成したのを契機に、平成二年第一回「新城薪能」が新城市文化協会主催で催され大好評を得ました。富永神社の祭礼能とは別に、流派を問わず誰でも参加できることとし、まさに「能楽の里」を目指しての企画であります。現在全国で二〇〇か所ほど薪能が催されていますが、ほとんどが能楽師による演能で、新城薪能のようにシテ方・ワキ方・囃子方・狂言方のすべてが素人というのはほとんど例を見ないと言われております。このような新城薪能を、長い伝統を持つ祭礼能と共に維持発展させてゆくことが私共の念願であります。今後とも絶大なご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

謡・仕舞・囃子（笛、小鼓、大鼓、太鼓）・狂言のお稽古をなさりたい方は、お気軽に文化協会事務局へお申し込みください。  
それぞれの向きにお世話をいたします